

インターバンクの声（2017年5月25日）

東京市場の終盤にもごく短時間ながら2度ほど112円台に乗せた後、111円70銭台で取引される時間が続いたドル円だが、FOMCの議事要旨発表が近づく頃には112円ちょうど前後に落ち着き始めていた。

最近の経済指標には低調な内容が目立ち始めていたが、それでも市場の6月利上げ織り込み率は高い水準を保ったままで、議事要旨から探ろうとしていたのは6月以降の年内利上げ見通しについてだった。これまでの見方とそれほど変化がない議事要旨の内容であれば、徐々に円安が進みそうな気配だったが、現実はそう簡単ではなかった。

大半のFOMCメンバーは、経済情勢が想定通りであれば「早めの」利上げが適切と指摘したが、やはり4月に発表されていた経済指標などが気になったのか、経済成長の減速が一時的なものかどうかを確認するまで利上げは控えるべきとの見方も明らかになった。

これではさすがにドル買いを進めるわけには行かず、短期の収益を狙ったドル買いポジションが一気に売り戻された。地政学リスクが一時よりも低下し、トランプ大統領のロシア疑惑問題の解決には時間がかかるとの見方にドル買いに少し安心感が戻っていたが、この議事要旨の内容で再びドル買いが難しくなってしまった。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。